

プレスリリース

令和元年 5 月 17 日
一般社団法人 日本船舶電装協会

LED式照明器具の船舶への利用拡大に関する調査研究委員会(第1回)を開催

1. 当協会は 5 月 17 日に「LED式照明器具の船舶への利用拡大に関する調査研究委員会」の第1回委員会を開催しました。
2. LED式照明器具は、省エネ及び省メンテナンスの観点から船舶へのさらなる利用拡大が見込まれていますが、ノイズを発生し、航海計器や無線機器に障害を生じる例がみられることから、当協会では本テーマについて 2018 年度から調査研究を行ってきました。
2019 年度は日本財団助成事業として取り上げられ、今年度の第 1 回として開催したものです。

検討内容は、次のとおりです。

- ① 前年度に行った、協会会員企業のアンケート結果とLED式照明器具の船内でのノイズ障害の影響試験結果の報告を行った。
- ② 船内での影響試験では、ノイズ対策機器と未対策機器について試験を行った結果、未対策機器ではノイズが出ていることが確認できた。
- ③ 今年度の事業としてシールドルーム等を使用した実証実験を行うこととしており、その要領について審議を行った。

このシールドルーム等を使用した実証実験は、ノイズの影響を受けた場合の対応・対策を検討する目的で行うもので、艙装密度の高い小型船の船内は影響等を受けやすいことを想定し、詳細に調査することとした。

- ④ また、LED照明器具の点灯方式(制御方式)による高調波/高周波ノイズの発生メカニズムを調査・検証することとした。
3. この委員会は造船所及びメーカーや電装事業者など会員会社を中心として検査機関等の代表を含む 14 名で構成されています。(委員長:関戸 常道 当協会元技術部長)